

次回の全国大会における展示会などへの協力を要請 群馬県桐生市内に現存する歴史的建築物を見学

全国建具関東ブロック協議会（坂本勉会長）は5月17日、群馬県桐生市の「うおせん」で平成26年春の会議を開催した。

会議に先立ち、参加者は桐生市内の歴史的建築物を見学。明治11年に建てられた蔵と大正12年に上棟した2階建ての主屋を街の観光資源とし



各県の状況を報告

て改修した「四辻の斎嘉」（旧・斎嘉織物）で昼食を済ませた後、桐生市内に残る江戸時代から昭和初期にかけて建築された社寺や工場を見学し、桐生市の歴史と併せて解説を受けた。桐生市は奈良時代から織物の産地として栄え、江戸初期に徳川家の天領となつてからは絹織物の一大生産地として整備され、最盛期には国のGNPの10%以上を占めるまでに産業として成熟した。市内には今も織物の生産工場だったノコギリ屋



挨拶する坂本会長

根の工場が存在し、建物は観光用に改装されたものも多い。

市内を見学後、会議場へ移動。会議の冒頭、坂本会長が挨拶。「東京オリンピックの誘致など、土木や建築は忙しくなっている。しかし、大型物件は大手企業が建具をダンピング販売している。こういう時こそ地域の組織が団結し、国に対して発言できるようにし、政治や学術と連携して後継者が仕事できる業界にしたい」といけ。是非皆さんの力を借りて、より良い組織にしたい」と、組織力を高めて対外的な発言を強化していく考えを語った。全国建具の小松俊悦会長は「木材利用ポイント、グリーン購入、標準見積書など業界にとって大事な作業も進めている。法人化を目指す方向も含め、規約改正も皆さんからの意見を賜わりながら進展させていく。次の常任理事会では来年の東京での

全国大会の開催案を示したいと思う。東京での開催には関東ブロックの協力がなければできないので、可能ならば数名の方に実行委員になっていただき、展示会の会場設営などで力を貸してもらいたい」と、来年の全国大会に関して要望。建築の国内最大市場である東京で建具展示会を開催することで新たな需要を開拓する意図を示した。

全国建具からの報告では、最初に第59回長野大会の概要を説明。通常総会、業者大会、講演会、展示会、表彰式などの一連のスケジュールを発表した。全国建具が扱う各種の保険制度の活用依頼、販売促進用の幟と障子パンフレット及び全国建具発行の図書類の購入を要請。第52回技能五輪全国大会は11月28日から12月1日まで愛知県碧南市臨海体育館で、第28回技能グランプリは来年2月20日から23日まで千葉県の幕張メッセで開催されることが発表された。全国建具に対する各県からの要望及び意見では、「全国建具を法人化する意見もあるが、できるだけ間を空けずに進めてもらいたい」、「建具展示会に一般来場者がどれだけ来ているかを正確に把握する方法は取れ

ないか。業者以外の人数と分けなければ、一般消費者への効果が不明確だ」「公共建築では公共工事共通仕様書に則った仕様にするべきであるが、一部では仕様と違うものでも通っている。全国建具で国に対して改善の発信をしてもらいたい」「展示会作品の評価について、部門ごとの表彰だけにして全体の順位付け評価を外してもらいたい」などの意見が出された。次回の関東ブロックは来年の10月に栃木県を会場として開催される予定。

各県の現状



桐生市の歴史的建築物を見学

東京

昨年後半からは消費税の駆け込み需要もあって組合員の大半は売上を伸ばした。組合の資材購買事業も順調に推移し、5年前の売上高に近い数字が上げられた。4月以降の仕事は減っているが予想以上の落ち込みは少ないと思われる。東京オリンピック開催決定がプラスになればという期待がある。東京での全国大会は大変だと思うが、具体的な構想や計画はどうか。

神奈川



今も残る鋸屋根の工業

坪単価の高い住宅は落ち着いたデザインも多く、建具や家具も無垢製品が好まれている。幼稚園、保育園、老健施設の建設も堅調。公共工事の労務単価引き上げや保険加入が強化されるが、製品価格に反映されることにもつながる。高齢化や仕事の減少で組合員数が減少し、それに伴い賦課金も減少。今後更に高齢化が進めば新たな策を講じなければならぬ。

群馬

昨年度より仕事量は増えてきたが、単価は安い。群馬県庁で展示会を開催しているが、我々の作品や技術の素晴らしさを訴えていきたい。県内事業所の企業調査を始めたので、今後毎年行い統計資料を作って行きたい。全国建具で公共工事の建具仕様書や安全マニュアル、施工要領書などの作成を推進してもらいたい。

茨城

木製建具の仕事は減少。高齢化により組合員が減る中、地域によっては積極的に若い会員を増やしている。新会員には技能検定の指導や勉

強会を実施している。全国建具展示会での作品数と見学者が減少傾向にある。総合順位での評価を無くし、部門ごとの順位にすることを提案したい。

埼玉

マンションの仕事量は豊富だが価格面の競争がいまだに激しい。戸建住宅は建材メーカーのユニット建具かデザインと材質にこだわる現場に分けられ、国産材を使う現場も多くなってきた。組合員同士で仕入れ業者の共有化や仕事の受発注を行えば価格でも競争できる。組合が力を付けて国に対して要望が言える団体、組合に入れば信用力が増す団体になればならない。

栃木

消費税増税の関係で4月までは忙しい状況だが、今後は不透明。新しい取り組みを行っている事業所の仕事量は増えている。組合では研修活動、全国建具への入会者拡大、ホームページの作成及び充実などを実施している。全国建具でも親組合と青年部の立場を再検討し、関東ブロックも新しい企画構成を望みたい。